

第2学年 算数科学習指導案

日 時：令和5年6月12日（月） 第5校時

場 所：

2年3組教室（南舎1階）

授業者：

1 単元名 「100より大きな数」（10/11）

2 指導の立場

（1）単元について

〈単元の目標〉

1000までの数について、構成、表し方、読み方などを理解するとともに、何十と何十の加法及びその逆の減法の計算をすることができる。

児童は、第1学年では120程度までの数について、数のまとまりに着目し、数の比べ方や数え方を考えることを学習してきた。本単元では、数の範囲を1000まで拡張していく。数の範囲を拡張する中で、数の概念や性質について理解を深めるとともに、乗法的な見方や数の用いられ方についても学習し、数を用いる能力を伸ばし、数についての感覚をより豊かにすることをねらいとしている。

（2）児童の実態（男子14人、女子14人、計28人）

本学級の児童は、個人追究になるとノートに自分の考えを書いたり、答えをすぐに出そうとしたりする意欲的な児童が多い。「はじめに」「次に」「それから」「だから」の言葉を使って説明しようとする児童もみられる。また、困っている仲間がいると教えに行く姿も多い。しかし、自分の考えをもつことができているにも関わらず、全体交流の時には自分の言葉で仲間に伝えようとする児童が固定化されている。本時では、自分の言葉で説明できるようにするためにペアでの交流の時間を十分に設けたり、黒板にキーワードを位置付けたりすることで、自分の力で考えを表現できるようにしたい。

（3）指導の方向

本時では、第1学年で学習した「数のまとまりに着目し、数の比べ方や数え方を考える」ことを生かして学習を進める。何十何十の計算は、10のまとまりのいくつ分と考えることを通して、1位数の基本的な計算をもとに求められることに気付かせたい。また、生活に結びつけた活動を位置付けることで、主体的に学ぶ意欲を高めることで、計算を確実にできるようにしたい。

3 研究主題に関わって

【研究主題】 見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

① 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる数学的活動の明確化

- ・導入時に既習の事項を想起させ、個人追究に見通しをもつ。
- ・10円玉や100円玉などの具体物を用いることで、「10のまとまり」「100のまとまり」を理解し、大きな数を1位数に見立てて考えることができる。

② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- ・「10のまとまりのいくつ分」をキーワードとして黒板に位置付け、説明の手立てになるようにする。
- ・計算方法を仲間に説明ができるようにして、日常生活に基づいた活動につなげられるようにする。

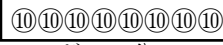

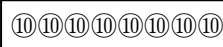

4 単元指導計画 「100より大きい数」

	時	ねらい	評価規準	学習活動
数の あ ら わ し か た	1	3位数の構成を理解し、数えたり表したり、読んだりすることができる。	3位数の数え方、構成、表し方、読み方を理解し、表したり、読んだりすることができる。(知識・技能)	<ul style="list-style-type: none"> 絵を見て、236匹の魚の数を工夫して数える。 236の数構成と読み方、表し方を知る。 「百の位」の用語を知る。
	2	3位数の構成を理解し、数えたり表したり、読んだりすることができる。	既習の2位数の表し方から類推して、3位数の表し方を考えている。(思考力・判断力・表現力)	415枚の折り紙や324本の鉛筆の絵を見て、3位数を表したり読んだりする。
	3	空位のある3位数の構成を理解し、表したり、読んだりすることができる。	空位のある2位数の構成や表し方、読み方を理解し、表したり読んだりすることができる。(知識・技能)	位取り表を使って、十の位が空位ときの数の構成や表し方、読み方を知る。
	4	10を10個以上集めた数を、何百何十と捉えることができる。	10を10個以上集めた数を表すことができる。(知識・技能)	<ul style="list-style-type: none"> 10を単位として、折り紙の数の表し方を考える。 10円玉、100円玉の具体物を使い、数の構成を考える。
	5	何百何十を10のいくつ分と捉えることができる。	何百何十を10単位として表すことができる。(知識・技能)	160枚の折り紙の数は、10のいくつ分になるかを、10を単位にして考える。
	6	数直線の読み取りを通して、3位数の順序、系列を理解することができる。	数直線の仕組みを理解し、数直線上に表された数を読んだり、数直線上に数を表したりすることができる。(知識・技能)	数直線を見て指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。
	7	3位数の大小比較の仕方を理解することができる。	3位数の大小比較の仕方を理解している。(知識・技能)	<ul style="list-style-type: none"> 3つの得点の大小を比較する。 不等号「<」「>」の意味を知り、数の大小を不等号を用いて表す。
	8	1つの数を多面的にみることを通して、数感覚を豊かにすることができる。	3位数の数を多面的にみて表すことができる。(思考力・判断力・表現力)	270という数を、10を単位として考えたり、加法減法な見方をしたりして表す。
千	9	100を10個集めた数を1000と表して、「千」と読むことが分かる。また、数直線を用いて1000についての理解を深める。	数を100のまとまりで捉えた学習を生かし、1000という数の大きさや表し方を考えようとしている。(思考力・判断力・表現力)	<ul style="list-style-type: none"> 100のまとまりが10個で1000になることを考える。 1000の構成や大きさ、読み方を知る。
ひき算 たし算と	10	本時展開案参照		
確 か め 問 題	11	基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	1000までの数の構成、表し方、系列、大小、相対的な見方を理解し、数を表したり、何十と何十の加法及びその逆の減法の計算をしたりすることができる。(知識・技能)	<ul style="list-style-type: none"> お買い物ごっこをして、生活に基づいた体験をするとともに、加法や減法の計算をする。 教科書73ページの練習問題に取り組む。

5 本時のねらい

10のまとまりのいくつ分かで考える活動を通して、何十どうしの加法で繰り上がりのある計算や、百何十から何十をひく減法で繰り下がりのある計算は、第1学年で学習した1位数と1位数の加法及び減法と同じ方法で計算できることに気付き、正しく計算することができる。

6 本時の展開（10/11） ○教師の発問 ・児童の意識

展開	学 習 活 動	指 導・援 助
つかむ	1 本時の問題を知る ○百何十や1000の数は、どのように考えると数えやすかったですか？ ・10のまとまりを作って、考えるとよい。 80円の牛にゅうと50円のクッキーを買います。合わせて何円になりますか。 ・分かっていること、聞かれていることを把握し、式を考える。	<ul style="list-style-type: none">本時まで、大きい数は10や100のまとまりで捉える学習をしているため、復習をして想起させ、本時の問題の見直しをもつことができるようにする。問題文から、分かっていること聞かれていることを把握し、立式する。図に書いて考えられるようにする。10のまとまりで考えることに気付いた児童には、「初めに」「次に」「それから」「だから」の順序を表す言葉を使い、終わった子同士ペアで交流して自分の言葉で説明できるようにする。困っている児童には、10円玉を使って考えるよう促し、10のいくつ分かで考えられることに気付かせる。10が10個で100になることも理解できるようにするために、10円玉や100円玉などの具体物を使用する。同じように10のまとまりで考えられるように、「10のまとまりがいくつ分」をキーワードとして 黒板に位置付けておく。150が10のいくつ分かを考えさせて、見直しをもって計算ができるようにする。150が10のいくつ分かで考えることが難しい児童には、150を100と50に分けて、それぞれ10のいくつ分かを考えることを促す。算数セットのお金の具体物を使って、考えるよう促す。合計が100円より高くなる場合は、100円玉を使うとよいことを考えさせる。
考える	2 本時の課題を知る 何十のたしざんやひきざんのし方を考えよう。	
	3 個人追究⇒全体交流   10が8こ分 10が5こ分 ○80や50はどのように計算したら簡単に計算ができるでしょう。 ・10のまとまりを作って計算する。 ・80は10が8個、50は10が5個。8 + 5 = 13で、10が13個で130だから、答えは130。	
	  ・10が10個で100、10が3個で30。100 + 30 = 130だから、答えは130。	
深める	4 引き算でも同じ考えが使えるかどうか確かめる ○引き算になったときは、どのように考えるとよいでしょう。 ・150 - 80を、足し算のときと同じように10のまとまりがいくつ分かで考える。 ・150は10が15個分、80は10が8個分。15 - 8 = 7、10が7個分で70だから、答えは70。	
まとめる	5 本時の学習を振り返り、実践する 何十のたしざんやひきざんは、10のいくつ分かで考えてけいざんするとよい。	
	6 生活に基づいた活動に取り組む ・10円玉、100円玉を使い、お買い物ごっこをする。 ・店員役、客役に分かれて品物の計算をする。 ・客役「50円のチョコと70円のあめをください。」 店員役「120円です。」	
	6 生活に基づいた活動に取り組む	
	6 生活に基づいた活動に取り組む	

《評価規準》【 知識・理解 】

10のまとまりのいくつ分をもとにした加法及び減法の計算を理解し、計算できる。（ノート）